

第9次妹背牛町総合振興計画

答 申 書

令和 元年10月11日

妹背牛町総合振興計画審議会

令和 元年10月11日

妹背牛町長 田 中 一 典 様

妹背牛町総合振興計画審議会
会 長 竹 山 忠 志

第9次妹背牛町総合振興計画について（答申）

妹背牛町総合振興計画審議会設置規則第2条の規定により諮問された第9次妹背牛町総合振興計画（令和2年度～令和11年度）について、慎重に審議した結果、次のとおり答申します。

記

【福祉の将来】 ー地域が支えるやさしいまちづくりー

- 1 現在、子育て支援は多様な取り組みが展開されていますが、子育て世帯では共働き家庭が多いことから、支援のより一層の充実に向けて協議・検討を重ねていただきたい。
- 2 「子育て世代包括支援センター」を開設し、あらゆる支援の提供がなされているが、それらを十分把握出来ていない方もいることから、対象者・利用方法・利用条件・サービスの内容など、その内容を分かりやすく整理をした情報の周知、並びにアンケートなどを実施し、そのニーズ把握にも常に努めていただきたい。
- 3 高齢者の人口比率がさらに増していく現状に、重要課題として高齢者福祉の充実が考えられる。高齢者が安心して自立した生活が送れるよう、第8次総合振興計画で取り組んできた「協働のまちづくり」を継続・改善をし、第9次総合振興計画においても、各種団体との連携強化を図るとともに、高齢者の包括的な支援体制をさらに推進されますようお願いしたい。
- 4 3,000人程が生活する本町の地域医療に不可欠な診療所の維持が最も重要であると考えている。現在の体制が本町のある程度限界と思われる中で、今後もその医療サービスの向上の可能性を探りつつ、各種方面との連携を継続していただきたい。
- 5 障がい者福祉は、町民一人ひとりの意識の形成のための相互理解、さらには教育も必要であるため、障がい者への理解、対応方法といった学習の機会が必要である。町民全体で支援できる体制づくりのため、行政の積極的な関わりや支援をお願いしたい。

【産業の将来】 ー地域産業を未来へつなぐまちづくりー

- 1 農業振興では、農産物のブランド化を図り、町外に向けてPRするとともに、農作業の省力化に資する技術の研鑽やロボット農機の導入・普及に遅れをとらぬよう、さらなる調査・研究を進めていただきたい。
- 2 地域産業の後継者・労働力不足が深刻な問題となっていることから、創業支援や雇用支援などの担い手と呼び込むための支援を進めていただくとともに、従来からの支援についても継続をお願いしたい。
- 3 外国から本町の企業に多くの技能実習生等が来て生活をしている状況である。これを機会に国際交流として町民と技能実習生等がコミュニケーションを図れる環境づくりを進めていただきたい。

【環境の将来】 ー快適な生活が送れるまちづくりー

- 1 高齢化が急速に進んでいることから、町内移動手段の確保は必要不可欠である。他市町村でも様々な工夫をし、地域に合う交通システムを構築していることから、本町も早期に調査・検討を行い、移動手段の確保に努めていただきたい。
- 2 町民意向調査から「移住体験施設」を求めていることは明らかであるが、具体的に調査・検討を行わないままに「移住体験施設」の整備・確保は難しいと考える。そこで、都市圏などの町外者がどれほどの興味があり、どのようなニーズを求めているか調査を行うため、検討部会などを早期に設置していただきたい。
- 3 人口減少の影響から町内には多くの空き家が点在している状況であるが、この空き家を活用し、移住定住対策に展開していただきたい。ただし、管理不全空き家などについては、周辺住民の安全確保の観点からも早急に改善されるよう対応をお願いしたい。
- 4 本計画では、各施設の建替え計画が盛り込まれている中で、その跡地の活用方法として、地域のコミュニティ形成の場など本町の積極的なアピールが期待できる発展的な利用方法の検討を進めていただきたい。
- 5 人口減が進む市町村では、移住対策に重点を置いているが、買い物や医療機関など生活面で不便を感じる町はそもそも候補地としては難しい。しかし、住宅の確保は当然のことながら、その引っ越し費用など移住者に対して十分な支援を展開し、今後候補地として選んでいただけるまちを目指して積極的に取り組みを進めていただきたい。

【教育の将来】 ー地域全体で教育・学習するまちづくりー

- 1 本計画では、小・中学校の統合について検討が進められることとなる。この財政状況が厳しい中で、いかに安心して教育環境を維持していくのか教育現場と行政が密に連携を図り、子どもたちがより魅力的で豊かな経験となりえる教育時間の創出に努めていただきたい。

【地域の将来】 ー安全・安心で信頼できるまちづくりー

- 1 近隣住民同士の連携を図り、防災に対する意識啓蒙や訓練を継続し地域の防災力の強化はもちろんのこと、長期停電などの非常時における災害対策本部・避難場所としての機能を果たすための非常用電源設備の設置や災害発生時の情報を住民にいち早く伝達するための防災行政無線の整備、また、近年頻発する傾向にある集中豪雨を想定した治水対策など、町民の安心確保を早い段階で取り組んでいただきたい。
- 2 単独での行政運営にも限界があり、他市町村との連携によって、より効率的かつ魅力的に行える事業の範囲を広げ、様々な分野において機能の向上がもたされるような柔軟な取り組みを調査・研究されたい。また、地域や行政の課題について、複雑化・高度化していくごとに、行政の仕事量の増加も懸念されることから、時代の流れに機敏に対応し、効率的な行政サービスの提供・維持に努め、持続可能な行財政運営が行えるよう、さらなる改善をお願いしたい。
- 3 町民が誇れる妹背牛町の自然・歴史・文化・教育など独自の魅力を構築し、広く情報発信に努めていただきたい。また、情報発信の方法が時代に即していないことから、早期にSNSの開設・活用を進めていただきたい。

【全体を通して】

- 1 限られた財源の中で、広い視点によって事業の取捨選択と、経営感覚を備えつつ事業の展開、また各検討事項について協議の進捗状況などの情報が広く町民に共有できる仕組みづくりを検討していただきたい。
- 2 全ての分野において、行政まかせとならないよう、町民一人ひとりの協力や問題意識のあり方が大切である。しかし、なぜ町民の意識低下となるのか、アンケート結果や町政懇談会などの意見を真摯に受け止め、妹背牛町の良いところ、悪いところを機敏に感じ取る行政運営の実現に努めていただきたい。

以上